

## 第6章 3日目：6月20日（木）：坂上～高山 晴れ

2024年6月20日（木）晴れ、高山本線仕上げ旅の3日目は。坂上駅から高山駅までの30.3kmに挑戦する。本日も不測の事態に備えて、高山7時40分発から始発の5時31分に急遽変更する。結果大正解であった。上枝（ほずえ）駅から高山駅の区間に相当梶子摺ったからである。



※いざ高山駅へ



※高山駅への道筋



※坂上駅へ



※坂上駅

各駅舎到着時刻は次の通り。

坂上(6:11)～角川(つのがわ、7:41)～飛騨細江(9:43)～杉崎(10:09)～飛騨古川(11:14)～飛騨国府(12:30)～上枝(14:33)～高山(16:13)

①6時15分、坂上郵便局前を通過。6時20分、国道360号線に合流する。6時39分、国道360号飛騨市宮川町岩奥とある道路標識前を通過。右手には宮川が流れていた。川の流れは富山方面に向かっていて、6時46分、JR線下を潜り、鉄道の左側となる。6時50分より360歩ある洞門を通過する。6時56分より洞門(129歩)、岩奥トンネル(1,667歩)、洞門(123歩)からなる区間を通過する。この区間を出ると7時14分であった。7時16分、左手にJR線があった。7時18分、高山方面に向かって列車が通過して行く。沿道の至る所で紫陽花を見かける。7時32分、JR線下を潜り、鉄道の左側となる。道路と鉄道の間には宮川が流れていた。7時36分より、132歩ある河合橋を渡る。国道360号線はこの橋を渡り河合方面(角川駅と逆方向)に続いてい

た。橋をわたり、左折し暫く歩いた先に角川（つのがわ）駅があった。7時41分に到着。駅周辺には民家が広がっていた。



※角川駅への路



※角川駅

②再度、河合橋に戻り右折する。ここからは国道471号線とあった。この辺りの地名は宮川町大無雁とあった。紫陽花ロードを歩く。箱根路を思い出す。8時13分より万歩計で111歩ある洞門を通過する。8時22分、高山24km、飛騨古川9km地点を通過。8時43分、宮川の流れを鑑賞しながら歩く。8時54分より、1,430歩ある野口トンネルを通過する。このトンネルを出た先にも60m位の洞門（112歩）があった。視界がこれまでの山間から平野に一転する。加えて民家が広がり精神的に安堵感が出て来

る。9時19分、JR線下潜る。飛騨細江駅には9時43分到着。駅備え付けノートにメモする。



※飛騨細江駅への路（山間から平野に）



※飛騨細江駅

③飛騨細江駅を通り過ぎた道筋（9時43分）で、宮川界隈で「熊出没」の放送を耳にする。このような放送が3回位ある。飛騨郵便協を過ぎた辺りで、国道41号線と県道75号線（神岡河合線）が分岐となる。県道75号線に方向転換する。この道路を淡々と歩いた先に杉崎駅（10時29分）があった。



※杉崎駅への路



※杉崎駅への路



※杉崎駅



※杉崎駅

④10時31分、大歳神社前で本日の安全を祈願する。10時46分、高山駅前に本店がある濃飛バスの行真バス停前を通過。11時6分、飛騨市役所前を通過。飛騨古川駅には11時14分到着。



※飛騨古川駅への路



※高山市役所、飛驒古川駅



※飛驒古川駅



※飛驒古川駅（特急停車駅）

⑤11時32分、五峯山林昌寺前を通過。11時47分、長閑な田んぼ道を歩く。11時53分、JR線下を潜り鉄道の左側となる。右手には荒城川（あらかき）が流れていた。11時56分、この川の土手を歩く。11時56分、幹線道路に合流し、万歩計で100歩ある中島橋を渡る。田んぼ一帯にビニールハウスのオンパレードとなる。これらのビニールハウスを見ると数十年前に両親がかつて苺経営をした頃を思い出し懐かしくなる。10時24分、荒城街道を横切り、鉄道の右側となる。飛騨国府駅には12時30分到着。



※飛騨国府駅への路



※飛騨国府駅への路





※飛驒国府駅

⑥12時38分、幹線道路に合流する。12時43分、広瀬橋バス停（濃飛バス）があった。476号線を歩く。13時8分、金桶橋を渡る。13時20分、左手に高山方面に向けて、ひだ号が通過して行く。13時31分、松本96km、平湯36km、高山市街8kmの道路標識前を通過する。13時44分、追分バス停前を通過。13時47分、JR線下を潜り、鉄道の左側となる。14時10分、123歩ある天神橋を渡り、国道41号線から幹線道路に方向転換する。鉄道に沿った道筋を淡々と歩いた先に上枝駅（ほづえ）があった。14時33分到着。



※上枝駅への路



※上枝駅



※上枝駅

⑦上枝駅から高山駅は花道と思ったが、田んぼと宮川（枝分かれあり）が前方を遮り、大きく迂回を余儀なくされた。本日より一番の難所の区間であった。14時52分、中切踏切を横切り、鉄道の右側となる。鉄道が全く見えず、不安になる。丁度、通行人の方に出会い、高山駅への道筋をお伺いする。「橋を渡り、かなり歩いた先に高山駅があります。遠いですよ」とお伺いする。15時13分、国道41号線に方向転換する。その先に教えて頂いた三枝橋（みえだ：宮川から分岐した川）が登場する。しかし、何故宮川を渡るのか機会できず。後で地図を確認したところ、宮川から分岐した川があると判明。この”三枝の活字”を見た瞬間、親父の旧姓（さえぐさ）を思い出し懐かしくなる。この橋を渡って暫く歩くと1番目の道路分岐点に差し掛かり右往左往する。第六感を神頼みにして直進する。間もなく歩くと高山市街への道筋があり、国道41号線から方向転換する。途中、高山市役所の看板を見て安堵する。15時42分、JR線を跨ぎ少し歩いた先で、高山駅に通じる幹線道路に合流する。500m位先に見覚えのある高層ビルのホテルが見えて来、安堵する。15時58分、高山市役所前を通過。高山駅には16時13分到着。



※高山駅への路



※JR線を跨ぐ、高山市役所



※高山駅前通り、濃飛バスターミナル



※高山駅

⑧高山駅構内にある金亀館（16時17分）に立ち寄り、飛騨高山ラーメンを頂く。そして、コンビニに立ち寄り、ビール・どぶろくとつまみを購入して本日の疲れを癒す。久しぶりに営業キロ30kmを歩き疲れたが、充実した一日であった。



※名物高山ラーメン、どくろくで乾杯

## 第7節 4日目：6月21日（金）；白川郷観光 雨／晴れ

2024年6月21日（金）雨／晴れ、下記のようなプランで白川郷の観光に臨む。そして観光の後もマルヤや寿楽久で楽しいひと時があり最高の一日となった。加えて、バスでの待ち時間、岩手県北上在住の安原夫妻と話す機会を得る。カッシーちゃんが入口となり、更に歩き鉄の実績をまとめた”樫原勉文庫”が大きな援軍となった。この文庫から安原さん最寄り駅の北上駅をタイムリーに抽出できたからである。改めて、ウェブサイト”カッシー館”の威力を痛感する。退屈な待ち時間40分位が充実した時間となった。安原さん有難うございました。



○高山駅8：50 → 白川郷9：40



○白川郷観光 9:50~12:40





※白川郷合掌苑”明善寺庫裡”に入館





※明善寺郷土館散策



※白楽でどふろくを堪能する



※白川八幡神社参拝



※白川郷を色々探検

○白川郷 13 : 15 → 高山駅 14 : 05



○マルヤで懇談 14 : 30～15 : 40

ホテルへの帰り道、“ぜんざい”という看板にひかれて、店に入る。私の帽子を見て、この店の女将さん（元田さん）から心温まるメッセージがある。早速、カッシーちらしを手渡し、これまでの経緯や歩き実績などを語る時間を得る。約1時間位お邪魔し色々世間話をする機会へと変化する。店内には色々な紙幣や常連客からの絵画が壁面やテーブルに展示されていた。せんべいもご馳走になる。至福のひと時であった

た。懇談の中で、女将さんから1968年頃、大雨の影響により高山本線の七宗町辺りで大惨事（バス転落事故）についても教えて頂く。思わず言葉を失った。



○寿楽久で高山最後の夜満喫 17:00~19:00

この店に三顧の礼を尽くし、高山の夜を締める。





※店主の四反田さん